

やお糠床モデルのチャレンジ

令和4・5年度産業振興会議提言書 概要

今期のテーマは、「八尾の未来を共創する～糠床モデルのチャレンジ～」である。地域課題を解決するための「解」を創出するため、どうすれば「発酵」するのかを実証実験し、効果検証した。

「発酵」のメカニズムは、旧来型の直線的な成長モデルではなく、地域に暮らし、働く人々や、地域で活動する企業や組織、諸団体、行政などが、それぞれの得手を活かして、それぞれを補い合い、支え合いながら、良質な化学反応を促し、結果としてイノベーティブなアクターが活発に動き、価値創造が実現されるというものであり、これらを具体化していくための「発酵」のメソッドを探ることが、今期の産業振興会議において引き継がれたテーマである。

今期の産業振興会議において、基本的なスタンスとして「コミュニティ参加への醸成」「働くことの楽しさを伝えるためのコンテンツ制作と仕掛けづくり」「挑戦する人を育てる」という3つが浮かび上がった。これは、前々期の産業振興会議の提言書で打ち出された「Be Makers!」というコンセプトを具体化するものであり、前期の産業振興会議で提唱された「やお糠床モデル」において具現化する方針となるものである。

これらの方針を具現化するため、産業振興会議での議論を経て、「子どもたちの創造性を育む」「コミュニティの取り組み」の2つをテーマとして、実証実験を行った。実証実験では、テーマに関連する事例を挙げ、これまでにすでに開始されていたものも含め、幅広い世代への取り組みをもとに検証した。また、実証実験を得て、学校向け出張講座が制度的に実施することが可能になった。

今期の提言は、こういった実証実験の成果や産業振興会議での議論などをうけて行っているものである。

【 提 言 】

①様々な課題のくみ上げ

八尾市に存在する多種多様な提案や課題（「やお糠床モデル」にとっての”種”）を汲み上げるための仕組みや方法の整備をする必要がある。

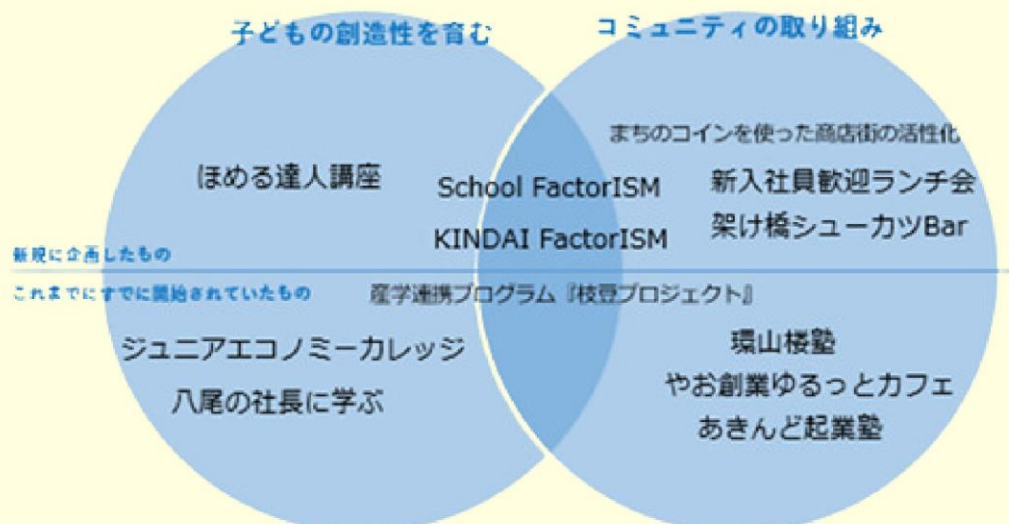
②従業員同士の交流

中小企業における人材不足解消の方策のひとつとして、社会的交流の試みを民間が実施しているが、地域エコシステムの充実という点から行政からの支援もなされることが望ましい。

③学校との連携

子どもたちへの取り組みをすすめるため、地域の経営者などの協力への行政からの支援や産業振興政策と教育政策との横連携を定期的の実施することが必要である。

実証実験の事例分類



『未来を創る！こども創造性教育～出張講座～』の実施

「子どもたちの創造性を育む」取り組みとして、市内小・中・義務教育学校向け「出張講座」の制度設計、コンテンツ作成を行い、令和6年度から制度的に実施することが可能になった。この取り組みは、子どもたち・経営者・学校現場をつなげる取り組みとして、産業振興会議の「糠床」でカテゴリーの違うメンバーがアクターとなり「かき混ぜる」「かき混ぜる」ことで「解」（結果）として導き出したものである。

〔出張講座の仕組み〕



八尾市産業政策課

Department of Industrial Policy, Yao City

電話: 072-924-3845

FAX: 072-924-0180

Email: sangyou@city.yao.osaka.jp

提言書の詳細はこちら➡



発行 令和6年2月（刊行物番号R5-156）